道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

長野市の英美さん（左）は爺ヶ岳が大好き。安曇野市の華織さん（右）は、パトロール隊の親切さにいつも感動。

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

丙午（ひのえうま）は火の性で、変革の年と言われています。他人事ではない2月末からの中東情勢が気になる中、淡々と週一スキー場に通っていました。13回目を終えて何となくカタチになってきたものの、進むほどに課題が浮かび上がり、荷重の基本を徹底的に修正する日々。これほどスキーにのめり込んでいるのは、一言でいうと「成長があるから」。体力も習得速度も違いますが、モトクロスを始めた20代の頃のようにワクワクしています。

そして楽しいに拍車をかけているのが、ホームゲレンデの爺ガ岳スキー場（長野県大町市）で集う仲間たちとのコミュニケーション。元々自由が好きな私は、グループがやや苦手。自分で70名ほどのスノボチームを主宰するも、限りなく自由で放ったらかしなので、キッチリした人は呆れてしまうほど。でも、仲間から「そんなに爺ガ岳に通うのなら、クラブ割引もある安曇野スキークラブに入れば？」と誘われて、昨年入会しました。

59年の歴史がある爺ガ岳スキー場は、家からたったの50分。雪のない道路で行ける大町温泉郷のすぐ先で、標高は940m～1200mと低いのにそこそこ雪があり、緩斜面もフリースタイルが練習できるパークやキッズエリアも充実。インバウンド色の強い白馬バレースキー場のリフト&ゲレンデ食料金とは一線を画し、リーズナブル。特にレディスDayはリフト券に食事千円やレンタルもついて2500円なので、幾度も仲間と押しかけました。利用者に優しいだけでなく、やる気のあるスタッフの笑顔や動きが本当に心地よいのです。

30名（16～68歳までのスキー&スノボ）で行った時。リターンもいるけれど、ほぼベテラン。

みんなの町が見える中間地点。白馬バレーの最南端ならではの光景。

以前にまして施設や雰囲気がよくなったのは、2022年から四輪レース界の田嶋伸博氏（株式会社タジマホールディングス代表）が「大町温泉観光株式会社」の新たなオーナーになってからでしょう。その名もモンスター田嶋は、かつて相棒の粟津原豊さんと共に戦ったラリーでは常勝の重鎮ですが、1991年に私が四輪部門のパリダカに出るために必要な国際C級ライセンス取得時に大変お世話になりました。田嶋さんのスズキスポーツでアルトワークスをレンタルしてサーキットを走り、彼の主催するジムカーナで1年間走りました。その頃から田嶋さんは、アメリカの有名なヒルクライム「パイクスピーク」で幾度も総合優勝を成し遂げます。オーナーとして長野のスキー場や様々な観光に関わってくれたのは、とても嬉しいことでした。

雑木林の欧風な自宅でハンコたちと。奥様の千賀子さんは、国家資格の公認心理士を持ち、今でも働いているそうです。

そして、コロナの時期はどこも静かなスキー場でしたが、今の盛り上がりは、そこを愛する人たちの情熱もあったのだなと思ったのが、「安曇野スキークラブ」。代表の浜石良治さん（77歳）に出会った時、そのあまりに素敵な笑顔と人懐っこさとホスピタリティ、そして60名（現在は約100名）もの会員一人一人はもちろん、仲間を引き合わせてくれる面倒見のよさにすっかり惚れ込んでしまいました。「いつか取材したい！」と思ったら、もうすでに多くの媒体で紹介されている安曇野の有名人でした。

オーラの違いは、その濃い人生にありました。現在は安曇野の静かな別荘地の自宅でガラス工房「遊び心」を家族で主宰。ガラスの印に好きな名前や顔などを彫るという予約制の体験工房ですが、なかなかの評判だそうです。安曇野市役所から頼まれてボランティアで移住者相談もやっているそうですが、とにかくバイタリティが半端ではありません。10時ごろにスキー場レストランの一角に集まってお茶会している時でも全員へのケアが完璧。彼のお陰で最近は若者やスノーボーダーが増え、情報も楽しさもバージョンアップされ、とても居心地が良いのです。以前は、22年の歴史を持つNAC（ニュー安曇野コミュニティー）という移住者120名ほどで作る母体の中の同好会のひとつだったそうです。それが高齢化でNACがなくなった時、浜石さんが中心となり仲間の3名で安曇野スキークラブのみを復活させたのでした。入会金は500円。会則も年会費も会報もなく、会話はLINE。爺ガ岳を愛する人なら安曇野在住以外でもOKと、閉塞感ゼロ！

10代～90代が揃うASCと我がチーム。今季最後のレディスDayに浜石さんを囲んで。また来季に会いましょう♪

団塊の世代の浜石さん、三越百貨店に入社してすぐ（22歳）に紳士服の商品開発でイタリアなどに頻繁に通って自ら発注する大役を任せてもらい、それを40代まで続けてきた人でした。リクルートで紹介されるなど、三越の顔でもあったとか。ところが結婚して子供が産まれて家も建てた38歳の時に燃え尽き症候群でうつ病となり、4年間ほど入退院を繰り返すことに。初めての挫折で心と向き合い、全てを無にして安曇野へ移住しようと決め、50歳で早期退職したのでした。

父はハワイの日系二世の起業家。日本に移住したものの、イエスorノーがはっきりしている性格故に成功と失敗の連続で、15回も転居を繰り返す波瀾万丈な暮らしだったそうです。そんな中でも学生時代から加山雄三に憧れてスキーとヨットを続けていた浜石さん、白馬の民宿でバイトをしながらスキーをしていた青春の思い出から安曇野が浮かんだのだそう。信州ではりんごの枝のハンコにりんごの枝で名前を彫るという蝦夷彫のハンコ職人と出会い、弟子入りと同時に共同経営者となり、全国のデパートの職人展で年商一億円をあげる大成功を収めました（移住してもやっぱり燃える浜石さん）。師匠亡き後は、ひょんな縁からガラスのハンコを彫り始め、諏訪でやはり大繁盛の大型店舗を20年間やるも、コロナ時に年齢もあって閉め、自宅でやる体制にしたそうです。好きな言葉が工房の名前になり、友達づくり、文化的なこと、和気あいあいが広がります。三越の凄腕だった時の好奇心とバイタリティとすぐに徹底的にやることころはそのままだけれど、「次の世代にどんどん渡さなきゃ」とも。古い体質はどんどん変え、新しい世代の背中を押そう！は、私も同感。とにかくうつ病があったからこその変革や優しさが輝いている浜石さんのファミリーヒストリー、面白すぎました。

そろそろスキーが終わってグリーンシーズンですが、移住者は多彩な方が多いので、サイクリングや山や個展巡りでも楽しめそうな安曇野スキークラブ。このままだと千名超えちゃうのでは？

都市計画の中の街路52

ほこみちと地区の価値向上（その3）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

ほこみちの指定状況を整理した前回に続き、今回は「ほこみちをいかに使いこなすか？」という観点から、利便増進施設の設置状況や占用主体の性格など、運用実態を見てみたいと思います。なお、ここでの情報は国土交通省「ほこみち」ウェブサイトを参照しつつ、2023年度末時点の139事例の調査に基づいています。

まず、ほこみちに何が置かれているのか、利便増進施設をみると、「食事施設」が38箇所と最も多く、「ベンチ」（30事例）、「購買施設」（20事例）、「看板」（19事例）などが続きます。やはり飲食と滞留が中心という傾向が読み取れますが、施設設置には空間的・時間的にさまざまな広がりもみられます。例えば、東京都港区の新虎通りでは、利便増進施設としてのベンチや飲食・購買に加え、道路内建築物まで含むメニューが記載されています。また、イベント時にはキッチンカーや遊び場、ストリートファニチャーも設置し、日常利用とイベント利用を立体的に組み合わせています。さらに、狛江市の市道236号線では、ベンチ・テーブルを日常的に設置しつつ、キッチンカー出店やテント販売をほぼ毎日行うことで、飲食・物販スペースとして運用しています。空間的な広がりという点では、広島市の紙屋町シャレオ（地下歩道）も特筆すべき事例でしょう。

また、占用主体（占用申請者）にも目を向けると、大きくは商店街、エリマネ・まちづくり団体、自治体、町内会等に分けられ、調査で判明したところでは、商店街40箇所、エリマネ・まちづくり団体19箇所、自治体6箇所、町内会4箇所という結果でした。こうした主体による運用においてクリティカルとなる占用料をみると、占用料の90%減額が72事例と過半を占めており、100%減額もみられました。例えば、松本市では時限的に占用料100%減額を措置していました。また、大垣市の「まちなかテラス」では、市の都市計画課が占用主体となって各種申請を市が一括処理しています。立ち上げ期のハードルを下げ、占用主体がほこみちを継続的に活用できる環境を整えようとしている点が注目されます。

さらに、新型コロナ禍での道路占用特例からの移行についても見てみると、「あり」が67事例と約半数を占めていました。緊急的措置が現行のほこみちへ接続されたことが、全国普及の大きな推進力であったことを改めて確認できるでしょう。

ほこみちの使いこなしをめぐる最大公約数的なポイントは、商店街等の地域主体を担い手として、飲食・滞留機能を核に施設と運用を多様化させていくことにありそうです。そしてその成否は、占用料の大幅減額やコロナ特例からの移行のような制度運用によって左右されることがうかがえます。

参考文献　山元洸太（2025）「歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の導入と路線価の関係性に関する研究」、2024年度東洋大学国際地域学科卒業論文、国土交通省「ほこみち」（https://www.mlit.go.jp/road/hokomichi/）

「街場のえんがわ作戦」の下、ほこみちの活用が進む松本市

道路交通情報

◇道路緊急ダイヤル　#9910
◇NEXCO東日本　https://www.e-nexco.co.jp/
◇NEXCO中日本　https://www.c-nexco.co.jp/
◇NEXCO西日本　https://www.w-nexco.co.jp/
◇首都高速　https://www.shutoko.jp/
◇阪神高速　https://www.hanshin-exp.co.jp/
◇本四高速　https://www.jb-honshi.co.jp/
◇日本道路交通情報センター　https://www.jartic.or.jp/

道路ニュースの宛名変更・発送停止について

○**宛名変更**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《変更後の住所》、《「社名」または「氏名」》、《宛名変更》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。
○**発送停止**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《「社名」または「氏名」》、《発送停止》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。

【宛名記載例】
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-3-1　尚友会館6F
全国道路利用者会議　様
No.0000　または　**U-00000**　1部

FAX　03-3501-5612
E-mail　the_road_news@road-jhuc.jp